

令和 5 年 7 月 24 区長記者会見

【司会】

皆様、こんにちは、定刻となりましたので、只今から令和 5 年 7 月 24 日、北区長記者会見を開始いたします。本日はお暑い中お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。私、広報課長の窪田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日は区長のお他、政策経営部長の藤野と企画課長の倉林が出席をしております。よろしく願いいたします。それでは早速ですが、やまだ区長よろしく願い致します。

【やまだ区長】

皆様こんにちは。今月もお暑い中、記者会見にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。ただ今から令和 5 年 7 月 24 日の区長定期記者会見を開かせていただきますのでよろしくお願いいたします。

はい、ではまず 1 枚目ご案内をさせていただきたいと思います。今日、7 月 24 日は芥川龍之介の命日であります。昨日事前にですね。お墓参りの方もさせていただきまして、今、区として掲げております、芥川龍之介記念館早期実現に向けて決意を伝えてまいりました。

そんな思いもですね、お伝えをしながら、川とまた公園です。今、これだけ暑いですので、区内の公園でも 13 か所、水遊びができる場所を区内では設置しております。8 月 31 日までは毎日、9 月に入りましたら、土日区内の 13 か所の公園で水遊びができます。10 時から 4 時までぜひとも区内の公園に皆様、お越しいただきたいという思いで、今日の 1 枚目の紙にさせていただきました。

それでは、記者会見の内容に移らせていただきたいと思います。はい。今日は大きく 6 つの項目についてお伝えをさせていただきたいと思います。1 つ目が区民サービスナンバーワンの行財政改革、また、子どものしあわせ、そして医療・福祉、防災対策や渋沢栄一プロジェクトについて、またスポーツについて、大きく 6 つの項目を挙げさせていただいております。

1 枚目からいいでしょうか。はい、行政サービス、行財政改革についてです。1 点目は情報公開で開かれた区政へ。また、進む！行財政改革です。内容といたしましてはですね。いよいよ新庁舎の整備が本格的に始まってまいります。早期開庁に向けて大きく動き出します。

まず、基本設計のプロポーザルが始まります。本日 24 日に実施基準、実施要綱を公表させていただき、この今回のプロポーザル、内容が事業者プレゼンテーションを公開にしていくという、北区の中で初めての試みをしていきます。こういったところが開かれた区政ということで、区民の方々にも新庁舎建設に向けては、できる限りさまざまな内容を公にしていきたいということで、まず今回の業者プレゼンテーションを公開としていきます。

あわせて外部の学識経験者を審査委員の中に入れていただきまして、今回内部的な人員だけではなく、外部の方々にもお入りをいただいて審査をしていく。こういった試みを始めたいと思っています。今日その外部の経験者についてもあわせて公開をさせていただきます。

あわせて設計、コンストラクションマネジメント 2 つ目になりますが、これについても北区として初めて取り組んでまいります。新庁舎の早期開庁に向けて、外部からの中立的な、全体を調整する。その役割としてマネジメントをしていただく。これもプロポーザル、7 月の 18 日から募集を開始させていただいております。

こういった工夫をしながら、より開かれた検討経過、また少しでも早く開庁できるような仕組みづくりをしていきたいというふうに思っています。

続きまして、進む！行財政改革ではいくつか挙げさせていただいておりますが、1つ目が芥川龍之介記念館の建設に向けまして、クラウドファンディングを今、検討というふうに書かせていただいておりますが、来年度令和6年に向けて実施をしていきたいということで準備を始めました。

こういった形で、地域の方々や芥川龍之介ファンの方々にも広く知っていただくための手法の一つとしても活用させていただきたいと考えています。芥川龍之介記念館そのものは令和8年開設を目標として進めております。

2番目が、ふるさと納税です。北区は昨年度流出額が約17億、そして北区にふるさと納税としていただいた分が200万円。世田谷区さんとかから比べれば、金額的には小さいのかもしれませんが、やはり北区の財政において大変大きな課題となっています。この対策として、ふるさと納税のポータルサイトを導入していきます。「さとふる」を通じて広く北区の良さや北区の色々な商品を見ていただくための取り組みを始めたいと思います。

今後ですね。返礼品の拡充も力を入れていきたいと考えています。こういった取り組みを強化して、流出額の影響を少しでも抑えていきたいと考えています。

3つ目が、区役所のDX推進です。第2回定例会で外部人材の登用に関する補正予算、可決をいただきました。

こういったことの検討も進めつつ、庁内のプロジェクトチームを立ち上げたいと思っています。これは来年度を待たず、すぐにでも立ち上げのための打ち合わせを始めまして、DXを進めていくべきだ。もしくはDX推進に興味を持っている職員の方に集まっただいて、今の業務からどのようなデジタル化を進めていくことができるのか。そのことによって業務改善につなげていくことができるのか。そういう思いを持った職員を募っていききたいと思っています。

各部署から何人というような形ではなくて、志をですね。庁内で一つに持っていけるような、そんなDX推進プロジェクトチームを発足していきたいと考えています。

4つ目が、職員組織の活性化といたしまして、これまで経済産業省でも健康経営に関する顕彰制度などを設けて取り組みを推進していますが、北区としてもやはり職員の方々が元気に生きがいを感じて働いていただく。このことがやはり区民サービスの向上につながると考えておりますので、この健康経営に向けた取り組み、検討を始めたいと考えています。

研修制度。また、どのような魅力が区職員の方々に北区の中で働くそうですね。あるかということもですね。いろいろと意見をいただきながら、そういった内容を今度は新規採用の新しく入ってきていただく方々に向けても、北区で働くことの魅力を発信していくことができる。そんな取り組みを始めたいと思っています。

次が子どもの幸せナンバーワンです。前回の記者会見でもお話をさせていただきましたが、夏休み前後の子どもたちの心と体の元気を守る強化月間と位置づけまして、やはり不安定になりやすい、この時期に少しでも相談ができる体制。また、目の行き届きやすい環境をつくっていくということで、プロジェクト強化期間を設けました。

主に3つあります。1つ目が子ども相談ポストと名前をつけました。小中学校一人1台端末を配布し

ております。この中のですね。タブレットの端末の中にメッセージ機能があります。

そのメッセージ機能と教育総合相談センター、これは相談窓口なのですが、ここをつなぐことで 24 時間メッセージが送れる。ただ、その対応として職員が対応できる時間、返信を送ったりする時間は 8 時半から 5 時までというふうにはなりますが、相談をしたいと思ったときにその一人 1 台端末、端末を通じて周りの人に知られずに相談をしていくことができる。この相談センターに届けられた内容については、スクールソーシャルワーカーや心理士などが対応しまして、すぐに学校スクールカウンセラー等につないでいくこと、また教員や連携チームをつくって対応していくような新たな仕組みとして、こういった相談ポストというものをつくらせていただきました。まずはこういった仕組みができたことを子ども達、また保護者の方々にもお伝えをしていくことが重要だと思っています。

終業式の日、この内容について全児童生徒には配付をさせていただきました。これからインターネット等も通じてですね。しっかりと伝えていきたいというふうに思っております。

2 つ目が前回の記者会見でもお伝えをしました、子どもなんでも窓口であります。

20 館の子どもセンター・児童館、ここでは児童館では乳幼児期の親子を中心とした居場所づくりとされているのですが、子どもたち、小中学生についても相談があれば、児童館に来て相談できるようなそんな体制をつくっています。もちろん、保護者の方がお子さんに対しての相談だとか、そういったものについてもできるような環境を全 20 館で整えています。

最後 3 つ目が東京都で行っております。LINE を使ったホットライン。これは、なかなか LINE を使って、子どもたち今 LINE を持っている子たちがほとんどですので、LINE を通じて相談をしたい、相談しやすい環境になると思うのですが、この存在はまだまだ知られていないので、こういった東京都の取り組みも積極的に子どもたちに伝えて対応していきたいというふうに思っています。

毎日 15 時から夜の 23 時まで受け付けているということで、先ほどのタブレットからの相談窓口とは違った時間帯で、ずらしていつの時間帯でも相談ができるような環境を整備していきたいということで、この 3 つを主に生徒児童と保護者の方々にお伝えをしております。

次に、高齢者。つながる医療・福祉であります。高齢者の方々の支援としてデジタルを活用していきたいというふうに考えています。

1 つ目がヒアリングフレイル対策、聞こえのサポートであります。試験的に導入を早速させていただきました。高齢福祉課の窓口で軟骨電動式集音機を設置いたしまして、聞こえづらいという方々に少し試していただきながら、窓口でのやりとりをスムーズに行っていくための補助機を導入しております。

これ以外にもですね。補助具としてこういったものがあるかということを検証しながら、また窓口対応もですね。高齢福祉課にとどまらず、高齢者の方々が多く来られる窓口については設置をしていく。そのための準備をしたいというふうに考えています。

2 つ目が高齢者の方々の熱中症対策の充実です。東洋大学と連携をいたしまして、熱中症対策の講習・講座を開かせていただきました。やはり、高齢者の方々、熱中症に対する知識だとか、そういったものがなかなか伝わっていないことで、予防できるものができなかったり、こういったことを防ぐために大学との連携事業の中で高齢者の方々に広く熱中症対策をお伝えしていきたいというふうに考えています。

3 つ目が認知症対策であります。VR 体験。これまで区としては、介護事業者などに VR 体験をしてい

ただきまして、認知症を体験しながらどういったケアが必要かっていうことを活用していただいております。今回、初めて事業者だけではなくて、区民の方々にもこの VR 体験をしていただいで、認知症の方々の感覚を味わっていただくことで、どのようなケアが町全体でケアをしていくことができるか。そんな取り組みにつなげていきたいというふうに考えています。

続きまして、防災対策です。6月の台風第2号の教訓を生かした対応を早速進めていきたいと考えております。まずはですね。情報発信のあり方について、さまざま御意見をいただきました。これまで北区としては、ツイッターやメール、公式ホームページ等、さまざまな SNS での発信をしてきたんですが、それら全て個別の対応でそれぞれの担当が配信をしてきたという。

この情報システムはですね。バージョンアップをしていくことで一元的に発信をしていくこと。また、情報収集もシステム化の中で効率的に収集をしていくことで、対応を迅速に行っていきたいというふうに考えています。TUMSY という現行システムを入れているんですけども、これまで第1世代であった、一番最初のバージョンだったものをですね。第3世代というバージョンアップをしていきたいというふうに考えています。ポータルサイト、また、防災アプリの連携なども考えておりますので、アプリを作っていくこともしたいと思っています。避難所の開設または利用状況、避難発令の指示など、リアルタイムに一元的に行っていけたらなというふうに思っています。

これはですね。来年4月、来年度の4月から本格的に導入できるように、今、内容を調整させていただいております。

また、誰一人取り残さない防災対策として、障害者の方々に向けての対応を強化したいと考えております。例えば、聴覚障害の方々に対してですが、避難所での DX 化で、どこの避難所にも手話通訳の方が居ていただけるのが一番なんですけど、災害時にはそういった対応がなかなか難しいであろうということを想定しまして、手話通訳の方に必ず居ていただく避難所と、それ以外のところには遠隔操作のできる手話通訳のタブレットを配置していくことを検討しております。あわせて、それ以外の障害をお持ちの方々への訓練参加を促進していくために必要な経費について、予算措置をしていきたいと思っております。

まずは避難所を開設する訓練が、区内の避難所開設訓練を各避難所で行っておりますので、その開設訓練の場で、例えば今、お話をさせていただいた手話通訳者の方の同席ですとか、それ以外必要な対応について予算を組みまして、障害をお持ちの方々にも訓練に出て来ていただけるようなそんな取り組みを各障害団体の方々にもご相談をさせていただきながら対応を強化していきたいと考えています。

3つ目が東京青年会議所との防災協定の締結であります。これはですね、先日行いましたが、災害時におけるボランティア活動に関する協定という締結内容であります。もともと北区といたしましては、社会福祉協議会とボランティアプラザとの連携の中で、災害時のボランティア受け入れの仕組みをつくっていましたが、ここに東京青年会議所の方々に加わっていただきまして、より効果的効率的なボランティアの受け入れ、また必要な場所にボランティアの方々に行っていただけるような仕組みづくりを作りたいと思っています。

特に JC のの方々、若い方がほとんどですので、デジタルを活用した、そんな仕組みをつくってもらいたいということを個人的にはオーダーをいたしました。社協・ボランティアプラザ・JC の皆さんと一緒にしっかりと災害対応ですね。訓練も含めて行っていけたらと思っています。

次に、新 1 万円札発行に向けてですね。新たな地域力を創っていききたいということで、渋沢栄一の新 1 万円札発行カウントダウンプロジェクトっていうのをつくらせていただきました。いよいよ 2024 年 7 月に新紙幣発行が決定されました。この時期がいつかということのを待って取り組みを開始したいと考えておりました。

正式に 7 月、日にちまでが公表されていないので、7 月の 1 日を目安にしながら取り組みを強化していきたいと思っておりますが、この 1 年間、8 月 1 日から来年の 7 月まで 1 年間を通じて区役所発信で渋沢栄一翁の取り組みや思いを区内外、また世界に発信をしていくことで、北区を盛り上げていきたいと思っています。北区を渋沢栄一で一色にしたい。今取り組んでおります、様々な事業が渋沢翁を通じて思いをこう伝えていく一つの取り組みにつなげられないかということも、各所管、全職員の方々にもお伝えをして、どんな事業ができるかなとか、今ある事業にどんな工夫をしたら発信していくことがさらに強力になっていくかなということのをですね、全庁にアンケートというか、意見をいただけるような、そんな体制を考えています。あわせて公民連携、商工会議所や観光協会の皆さんをはじめ、区内さまざまな方々との連携の中で、渋沢栄一翁の取り組みを発信していくこと、そして何より北区を発信して北区に行ってみたい。北区に住んでみたいというような機運を高めていきたいというふうに思っています。

具体的な取り組みとしては、1 月に新紙幣発行記念イベントを開催予定であります。北区ゆかりの著名人、今オファーをしておりますが、決まるまでまだ内緒なのですが、渋沢関係のトークショーを開かせていただいたり、渋沢を顕彰する助成やまた商品開発の助成も充実させていきたいと思っております。

これ以外にも様々な案を、職員の方々から集めて、もっと言えば区民の方々からご意見をいただいて事業に取り組んでいきたいと思っております。例えばですね、これは私、まだ個人的な発想なのですが、しぶさわくんの歌があります。水森かおりさん、紅白の歌手さんですが、水森かおりさんのこのしぶさわくんの歌がですね。紅白の歌で歌ってほしいなというのは思っています。NHK に営業に行って、渋沢コーナーをつくっていただいて、渋沢関連の歌をコーナーとして作ったらどうかなということも、しぶさわくんキャラクターと一緒にお願いに行ってくださいかなとか。

それを通じてですね。渋沢翁の取り組みですとか、ゆかりの地を発信していきたいなというふうに思っています。さまざま渋沢栄一を通じた地域発展のためのプロジェクト。これから考えていきたいというふうに思っております。

最後にスポーツに関してです。公約の中でも、文化・芸術・スポーツを区民目線で活性化！ということで、スポーツを通じて町おこしをしていきたいということは、常々申し上げさせていただいております。

様々なスポーツ団体との連携の中で発信していきたいと思っておりますが、その取り組みの大きな一つとして、日本スポーツ振興センターとの連携を強化していく、ジャパンスポーツネットワークへの加入を今検討しており、協議を始めました。この「スポーツの力共同宣言」を取り交わし、北区からそのスポーツを発信していくということを内外にお知らせをしていきたいなというふうに思っております。

あわせてスポーツ振興センターが国内外でさまざまな知見を蓄積されている。そういったものをですね。ぜひとも活用させていただきながら、今ある北区のスポーツの力をさらに一歩進めていくための連携のし方ですとか、事業の持ち方などを検討していきたいなというふうに思っています。

このことで、区民の方々の健康寿命を延伸していくこと、そしてスポーツの力で地域を活性化していく。大きくこの 2 つを目的にして進めていきたいと考えています。

以上、大きく 6 つの項目について今日はお話をさせていただきました。ぜひともご質問をいただきまし

て、また何かご意見がありましたら、頂戴できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【司会】

ありがとうございました。それではこれより質疑応答に移らせていただきます。質問の際には挙手の上、職員が持参いたしますマイクを使ってご発言ください。質問のある方はいらっしゃいますでしょうかよろしくお願いいたします。

【質問者 東京新聞】

東京新聞のハマサキです。よろしくお願いいたします。子ども相談ポストでちょっと伺いたいのですけれども、改めてこれは何時から何時というところと開設期間は何月、何日から何月、何日なのでしょう。

【やまだ区長】

はい。7月の18日から開始は既にしております。9月までというふうに考えておりますが、9月以降もしっかり対応していけるような形で、所管とは協議を進めています。また、時間ですけれども、今1枚目のスクールソーシャルワーカーや相談員、心理士の相談員が、まず最初にメールを受けます。

これが教育総合相談センターというところなのですけれども、ここで受け付けて、受付はもう24時間なのですが、メールを開いて対応していく時間が8時半から5時までとなります。

もう一つのLINEによる相談ホットライン。これはですね。東京都のシステムになるのですけれども、15時、3時から21時、受付自体は22時半までと聞いていますが、夕方から夜の時間帯はこのLINEによる相談も可能だよということを、時間を問わず選んで相談してほしいということをメッセージとして伝えていきたいと思っています。

【質問者 東京新聞】

9月までというのは9月いっぱい、今の予定では9月いっぱいですか。これまでいわゆるタブレットからメッセージで相談して、こういうスクールソーシャルワーカーの方とか心理士といった相談員の方に相談を受けられるという仕組みはなかったのですか。

【やまだ区長】

そうですね。メールを通してというか、今、やはりこだわったのは、やっぱり子供たちに配られているこの学校で使っている、このタブレット。一番もう見る機会が多くて、どの子供たちも持っている。これを通じて直接相談員にメールが行くってこの仕組みを作りたかったものですから、そういった形は初めてです。

【質問者 東京新聞】

その取り組みについて、特にこの期間に関して、こういう重点的に、こういう手厚い相談体制を設けられた区長の問題意識というか思いというのをお聞かせください。

【やまだ区長】

やはり夏休みは様々な経験とか学校生活とは違う生活の中で、色々なリスクや危険もはらんでいる時期だと思います。それと、いつも毎日学校に通って何かあった、変化に気づけるという目が減る時期でもあるので、やはり児童生徒本人もそうですし、お父さん、お母さん周りの方々も気づいたらこういったものを活用していただけるような、活用を促してもらえよう仕組みが必要だというふうに、1年を通

じて夏休み明けが子供たちの心理的な安定が一番不安定になる。それによるさまざまな行動がよく危惧されておりますので、こういったことを防いでいきたいという意味で、まずは子供たちが相談していいのだという、またいろんな人に気がつかれずにとりかかるとか、こっそり相談できるということも一つ重要なことというふうに思っていました。国の方では端末を通じて自殺予防の対策を将来的に導入していくという内容の検討に入っているというような話もありました。この検討の前にですね。ずっとこう区長就任後、この仕組みを考えていて、もしそういった国の考えとマッチしていきことができれば、むしろモデルケースとして北区がこういったものをですね。充実をさせていき、全国に発信していきことができれば、うれしいなと思っています。なので今、教育総合相談センターの職員に向けてつながるようなメールの仕組みになっているのですが、さらにこう発展をさせていくための研究は続けていきたいというふうに思っています。

【司会】

ありがとうございました。ほかにご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【質問者 都政新報社】

都政新報社のドイです。すいません 2 点お伺いしたいのですが、まず新庁舎の公開プレゼンテーションなのですが、これはいつごろを予定してるのかというのと、公開の方法は、例えばオンラインでの公開なのか、区民をその場に呼ぶのかとか、ちょっと具体的なことを伺えればと思います。

あと済みません。この会見の内容とは関係ない話で恐縮なのですが、7 月 1 日からの新しい副区長がお二人、中嶋副区長と犬飼副区長を選任されたと思うのですが、二人を選ばれた理由っていうのを伺えればと思います。

【やまだ区長】

はい。まず 1 点目でスケジュール感なのですが、まず本日実施基準、要綱等を発表させていただきますして、参加表明の締め切りを 9 月 11 日正午までと考えています。そこから年末、12 月の中旬中旬まで審査をいたしまして、年明けの公表と考えております。

それとですね。内容についての公表のし方はですね。通常ですと今まで公表してなかった。これを様々な内容を終了後にですね。冊子としてつくっていきたいというふうに思って、記録紙でまとめていきたいなということ考えています。また、プレゼンそのものの公表については、ライブ中継は行わないと考えておりますが、後からのユーチューブ配信っていうような形で考えています。

後 2 点目。副区長の選任についての考え方ですが、副区長 2 人制になった時、私、区議会議員でいたんですけども、やはりその時からのこう副区長 2 人にしていく。その意図というのが、やはり大きく役割分担だっという風に受けとめていたのです。

そこをですね、この期を捉えて、改めてまちづくり、駅周辺再開発が 4 つの駅、主要駅 4 つが同時進行で進んでいく。もちろん、新庁舎も含めて大きいまちづくりが動き出す。このタイミングでまちづくりに関する所掌事務を担当してもらえよう副区長が必要だと、で進めていきたいという思いがありました。

なのでその制度としては、やはりこのまちづくりのタイミングと今が合っているということで役割分担をしていくことが、より効果的な仕事ができるかなというふうに考えておりました。ということが一つ。

それとですね。人に関してでいけば、まずそのまちづくりに関して犬飼副部長は昨年 7 月にちょうど国交省から派遣をしていただいでですね。進み出すまちづくりの第 1 歩として技監として来ていただいで、

1年間さまざまな区の職員を含めて地域外の関連事業者や地域の方々とのやりとりも、私も都議会議員の立場から一緒に勉強させていただく中で、やはり様々な知識経験。それから人脈、そういったことがやはり北区にとって必要だなという判断をしました。

職員の方も地域の方も上手くしっかり連携ができるっていうことは非常に人となりも含めてですね。魅力を感じました。

中嶋副区長に関しては、やはり区の中でたたき上げですね。政策経営部長まで経験をされて区の中の事業に関しては、責任を持って対応していただけるという安心感の中で、より高い立場として全体を仕切ってもらおうということが有効だなというふうに判断をして、中嶋副区長に任命をさせていただきました。また、人柄もですね。非常にあの職員、私、凄く素晴らしいなと思っているところが、職員の方々の意見をしっかりと丁寧に聞かれる姿勢というのが素晴らしいなというふうに思っていて、改革を進めていく上で、職員の方々の理解があって初めて進められると思っていますので、そういう意味では職員の方々としっかりと連携がとれる副区長の体制の中で、中嶋副区長が適任だと判断をしました。

【司会】

ありがとうございました。他にご質問のある方はいらっしゃいますか、お願いいたします。

【質問者 読売新聞】

読売新聞のイトイガワです。お願いいたします。あの渋沢栄一のカウントダウンプロジェクトに関してなんですけど、2点ございまして、区民や区の職員の方からアイデアを募集するというお話だったんですけど、具体的にいつごろを目途に始まるのかというのを伺いたいのと、

あと2点目がですね。これまでも渋沢が居を構えた町として発信は行ってたと思うんですが、今後1年間についてはどういうところをこれまでより強化して行っていきたいというふうに考えてらっしゃるのか教えてください。

【やまだ区長】

ありがとうございます。この7月っていう発行が正式に発表された時点です。このプロジェクト案の中で検討しました。そういったこともありまして、もう早期に始めたいというふうに思っておりますが、なかなかそういう意味ではすぐに事業が実施できるかというところも難しいところもあるんですけども、まずは職員と区民に対してこのプロジェクトを立ち上げて発信していくんだっていうことを、発信をしていくのにご意見ください。これだけでもまずインパクトとしてはあるのではないかなというふうに思っておりますので、そこは早期に開始をしたい、意見を伺えるような仕組みづくりを早くやりたいというふうに思っています。

あとですね。まさに大河ドラマから新紙幣の顔となることが決まってから、観光協会や商工会議所や民間の方々の一つずつ、積み上げてつくってきた取り組みがあります。

これらを基礎として、さらに最後の、最後というか、より強化するべき1年間、この1年間でどんなことをやっていくかっていうのを1年を通じて、また区の事業それぞれを通じて、例えば広報課だけとか、政策系だけとか、どこか一部がやるだけではなくて、全庁上げてこの意識をですね。持って取り組むことが大切かなというふうに思っております。

例えば、教育の場面で渋沢栄一についてのこう伝えていく機会を増やしていくとか。どの部署でもそういったことが検討できると思いますので、それぞれの意見の中でさらに強化をしていく。一番その、1年

の中で予算がしっかりとつけられるかどうかということだと思っていますので、より発信をしていくための体制づくりもやっていきたいなというふうに思っています。

面白い事業をですね。みんなで考えて、これから発信していきたいと思しますので、基本となることはやはり今まで渋沢栄一翁を通じて民間の方々との連携の中でつくってきたもの、現在進行形の事業。これらはもちろん、基礎としながらさらに発展をさせていくための原動力をですね。カウントダウンプロジェクトと銘打ちまして、発信していくっていう思いです。特別、別のことをやるというも、さらに上乘せしていきたいなと思っています。

【質問者 読売新聞】

はいありがとうございます。より関わる人を多くしていくというようなイメージで。

【やまだ区長】

はい、そうですね。より皆さんに興味を持っていただいて、ご意見をいただいて、その中でその意見を実現していけるような。これで世界も含めて、海外の方々にも発信していけたらなと思っています。

【質問者 読売新聞】

すみません。あと、区民の方への意見募集というのは、もうすぐにでも始められるような感じですか。

【やまだ区長】

もうちょっと、まず職員の方が先になると思います。順番としては、はい。

【質問者 読売新聞】

わかりました。ありがとうございます。

【やまだ区長】

ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございました。他にご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【質問者 朝日新聞】

朝日新聞のモリシタです。

今日発表されました芥川龍之介記念館建設なのですが、この北区初なのですが、クラウドファンディングを検討されてるということなのですが、これは具体的に、建設は令和6年実施ということなんですけれども、大体いつごろからこうクラウドファンディングを呼びかけられるのか、で、あと金額はいくらぐらいなのかとか、もし分かっていたら教えてくださいなと思います。

【やまだ区長】

令和6年度に開始をしたいと思っています。6年度、令和6年4月に開始をしたいという、まあ時期は未定ということで表現をさせていただいておりますが、令和8年の建設完成を目標としておりますので、令和6年から募集をさせていただき、今、金額としてはこれまではコロナで止まっていた分、建設費は高騰しておりますので、そういった積算を改めてしております。金額の見直しをしておりますので、それ

をもとにした設定をしていきたいと思っています。スタートは令和6年の4月を目指して検討しております。

【質問者 朝日新聞】

金額はまだ未定。

【やまだ区長】

そうですね。

【司会】

ありがとうございます。他にご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【質問者 時事通信】

時事通信のタナカと申します。よろしくお願いいたします。軟骨伝統式集音器についてなのですが、こちらを本格導入するとしたらいつ頃なのかということと、あと窓口今設置始まっているところとあと、今後設置しようなどの名前をちょっと改めて伺えればと思います。

【やまだ区長】

はい、今、高齢福祉課の窓口で試験的に置かせてもらって活用いただいています。それとですね。やはり介護の手続きの窓口ですとか、あとは区の庁舎だけではなくて、あんしんセンター、地域包括支援センターなども高齢者の方々のさまざまな窓口となっていますので、そういったところも検討の中に入っていくと思いますが、今の段階では高齢福祉課という窓口で対応しております。

私も実際耳につけてみたのですが、色々な感想をいただきながら、こういった補助具がいいのかってことは広く検討していく必要あるなというふうに考えています。

【質問者 時事通信】

すみません、もし本格導入するとしたら、日時とかは。

【やまだ区長】

そうですね、本格導入ということになりますと、やはり年度での考え方になりますので、来年度以降という形で考えています。

【司会】

はいありがとうございました。他にご質問ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。はい。それでは以上をもちまして、本日の記者会見を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

【やまだ区長】

ありがとうございました。